

# みんなの暮らしを、もっと 便利に・安全に・快適に!!

## 袋井バイパス・磐田バイパスの概要

袋井バイパス・磐田バイパスは、袋井市や磐田市を東西に通過する交通を担い、市街地の交通混雑の緩和や生活環境の改善、沿線地域における物流の効率化、経済発展と計画的な都市開発等に寄与する重要な道路です。

このうち、袋井バイパスは、掛川市領家を起点として、袋井市中心部を迂回し磐田バイパスに至る延長9.1kmの道路で、現在、沢田IC～国本ICを暫定4車線の平面構造で、国本IC～三ヶ野IC区間を暫定2車線の立体構造で開通しています。

また、磐田バイパスは、磐田市岩井を起点として、磐田市街地の北部に位置する磐田原台地を通過しながら迂回し、新天竜川橋東端の小立野に至る延長7.2kmの道路で、三ヶ野IC～森岡IC間を暫定2車線の立体構造で、森岡IC～小立野IC間を完成4車線の立体構造で開通しています。



袋井バイパス堀越IC付近より浜松市方面を望む (平成22年10月撮影)

## 整備目的

袋井バイパスや磐田バイパスでは、平成17年3月の静岡県内の4バイパス(藤枝、掛川、磐田、浜名)の無料化や平成20年3月の新天竜川橋8車線拡幅の開通に伴い交通量が著しく増加しました。このため、慢性的な渋滞が発生し、通勤や買い物などの日常生活行動や物流活動に支障を来すとともに、渋滞発生に伴う追突などの交通事故が多発、さらには沿道環境の悪化の原因にもなるなど、様々な問題を抱えています。

これらの問題解消に向け、平成20年度に磐田バイパスの全線4車線化が事業化され、平成21年度には袋井バイパスの国本IC～三ヶ野IC間の4車線化が事業化されました。

袋井バイパス・磐田バイパスの整備により、袋井市や磐田市の市街地の交通混雑が緩和し、物流交通の円滑化、西遠都市圏の連携促進、交通事故の削減、環境改善等が図られます。



磐田バイパス岩井IC西側より静岡市方面を望む (平成23年2月撮影)



磐田バイパス加茂IC付近より浜松市方面を望む (平成23年2月撮影)

## 期待される 整備効果

### ①物流交通の円滑化



袋井バイパス、磐田バイパスともに、現況の大型車は全交通量の約4割を占めています。当該地域を東西に通過する物流交通にとって重要な路線となっていますが、現状では慢性的な渋滞が発生し、物流交通に大きな支障をきたしています。

袋井バイパス、磐田バイパスの4車線化に伴う渋滞緩和により、搬送時間の短縮や定時性の確保など、物流交通の円滑化が図られます。

### ③交通事故の削減

袋井バイパス、磐田バイパスでは、ここ4年間(H17～H20)で追突事故が280件、死亡事故につながる正面衝突事故が6件と多発しており、これらの事故発生時には通行止めによる渋滞も発生していました。

今回の4車線化に併せて、道路の中央に防護柵を設置することにより、正面衝突事故の解消、事故による通行止めの削減等が期待できます。また、慢性的な渋滞が緩和するため、渋滞の末尾で発生する追突事故の削減も期待でき、交通安全性が向上します。



### ②西遠都市圏の連携促進

西遠都市圏(浜松市、磐田市、袋井市、湖西市、周智郡森町)では、市街地外縁部や郊外に輸送用機械などの大規模工場が数多く立地しています。市街地に住む多くの住民の方々は、これらの工場まで袋井バイパス、磐田バイパスを利用して自動車通勤をしています。

袋井バイパス、磐田バイパスの4車線化に伴い、浜松市⇄磐田市⇄袋井市間の所要時間が短縮することにより、通勤時の定時性・速達性が向上する他、買い物・娯楽、業務等における拠点間の移動性が向上するなど、西遠都市圏内の連携促進が期待できます。



### ④環境改善

袋井バイパス、磐田バイパスの4車線化により渋滞が緩和されると、車輦の走行速度が向上し燃費向上による排気ガス排出量が軽減するため、沿道環境の改善が期待できます。

また、4車線化による交通量の増加に対応するため、必要な箇所に遮音壁を設置し、沿道の騒音環境基準の改善に配慮します。